

『鴻鵠』の出典 — 『史記』「陳涉世家」

燕雀安知鴻鵠之志哉

陳勝者、陽城人也。字涉。吳廣者、陽夏人也。

字叔。陳涉、少時、嘗與人傭耕。輟耕之壟上、

悵悵久之曰、苟富貴無相忘。傭者、笑而應

曰、若爲傭耕、何富貴也。陳涉、太息曰、

嗟乎、燕雀安知鴻鵠之志哉。

燕雀安くんぞ鴻鵠の志を知らんや

陳勝は、陽城の人なり。字は涉。吳廣は、陽夏の人なり。

字は叔。陳涉、少き時、嘗て人と与に傭耕す。耕を輟めて

壟上に之き、悵悵すること之を久しうして曰はく、「苟も

富貴ならば、相忘ること無からん」と。傭者、笑ひて

応へて曰はく、「若傭耕を爲す、何ぞ富貴ならんや」と。

陳涉、太息して曰はく、「嗟乎、燕雀安くんぞ鴻鵠の志を

知らんや」と。

（秦に反旗を翻し、滅亡の先駆けをなした）陳勝は、陽城の人である。字は涉。吳廣は、陽夏の人である。字は叔。陳涉が若い頃、他の人々と一緒に人の田畑を耕す作男となったことがあった。ある時、仕事を中断して畦道に行き、しばらく恨み嘆いて、「たとえ裕福な身となっても、お互い忘れることがないようにしよう。」と言った。仕事仲間は笑って、「おまえは作男の身分じゃないか。どうして裕福な身分になれるようか。」と応じた。陳涉は、大きな溜息をついて、「ああ、燕や雀のような器量の小さなものに、どうして鴻鵠のような大人物の望みがわかるうか。」と言った。